



花傳抄
第六卷

子 12
1656
4



1656
4



物も杯忠志あり〜業小津う〜か〜
まふか〜世道乃肝要ふれを甚志あり〜
といふあり〜なむ〜〜凡何事〜と
浅き守ふあり〜せんら本意あり〜然もよ
〜とた〜ら〜てあり〜き〜浅きと知〜〜たと
ひを〜ら〜す〜之〜焼〜湯〜汲〜ふ〜と〜此〜風〜法〜由〜を
あり〜つ〜く〜き〜い〜よ〜い〜と〜い〜ま〜く〜き〜う〜を〜吹〜き〜う〜
く〜う〜〜か〜ん〜志〜う〜〜と〜い〜ふ〜あ〜す〜事〜も〜せ

花傳六

上は清司の思ひ入りすも一みえの
しつておまゝ一海も船き入りす世出
とよく得入一

一母神八がうりはよわきとてり多あま
おまふあふ事やまあかゝ是一七事
まのういてとる一くれも思ふあゝ女
清かゝのおとの其法あるまのいん事
おくれをよしくまあをう海まをうあ
寸尋へ一たよれ事一乃めり一六事一

又あゝ事あれをまのまも寸のたへ
たきあ袖乃物立はち紙乃海まの一と有
まてあう舞白拍子あは物ねあはれ
や扇あゝそあれうと一あてそあまいう
あましくらしくやおまをす一て持入
衣えう海あゝいあうくやあゝくこと
一いといまゝいふあゝいあゝいあゝい
かや持やあま乃ひとこあゝいあゝい
何あひえ又う一海まゝいあゝいあゝい

そらと流すくそして母よにせいのあはく
袖のふりき物まこてひさねもあはく
以言ふともさしくすす一是かあき
時の事ありこれえとてとら一あちとあ
まゆしくとそんとあり何乃物まの成と
殊外廿わりのとてとてとす

一老人の物まの此道乃真体也能乃位や
てよそ同ふあつらう半一ふれえ是か
大半之九能とよさ強ふきよあたるまで

や老たふ治共あぬ人あつらひあまの
己増取ふとれいさこの翁姿と忘小也
れそやうそと子と半是せんこ批判
あつらうあつらう一衣老人の姿
らん人あつてはふあふかしの能言乃切入
言物小はと一うふき一もいさといふあ
くこのまあひあつらうすくあ
一物わける乃才の面白き能能と物わら
あくおあきれは道と得はるん者十

方へは——くろみし——こめんの入を
 きまの——あまの——飯谷つる地乃取し神
 佛りとりめ生虫並死素ふとふまつる物
 の神ともあへんたよりま——親よれ別
 子ともつる男小すせらま妻小とくあ
 かもれ思小知人す家物ね一大事くうあ
 けおとひるまてそ心小とげと——てあ
 へん小くくくね小及親人のつとあ
 思ひゆへ乃物ねともいふあ——あおとふ乳

多とが意よあそくねあをね小あそく心よ
 入てらあつて其か人あて見あさこまうて
 有へまきあ——かやうあるてかろはくあまれ
 ある不あ——れをねらとふと知——是々
 う——思ひ分——凡物ねの物をよあひ
 だ家あ——ふおま——きく申せいあ——まあ
 ら物ねよ——とて時小あ——何ともし花
 をう小あ——一時の花とらう——にます
 一——又云物まの——あれと心得へこる

五物相つづき物乃平意と物といふも女
物相ふとれ式ハ三セ下たり毒ノ鬼神ハ
とれつて事何よりいふも女乃平意と
はささこの女意とせんとも母安わてい
くわれえ又亦よあ守女くうと女小
五物をつまひとの道相あり又男物ね
小甘ふとれある事と同料爰成り
能けく家つて料爰あさ物と物此道
とちやりいん書とれさるる小いあ

らね事とさしわく爰は海一水くうあんを
そ心事能作人乃秘するありひさ面乃
物相能とまきこちありひて十分よを同
敷せかんとあつとそれくよあつとひん地
ね小よとあな家ああてうふ氣とひんり
ゆれえみくねねあま物まひ眞意とよ
やうつら一難一ちまの申樂ふひとひを
惚惚乃人かんとあつとひん面乃六
事物相の二七事二かといひあて

おとろきおれをふあそん事いひた乃
大事そやふくけい有

一殿是又一神乃物とく青世の
きあまれありこのいそは

但原平あとの名乃き人れ事そ花さ風
月小伝りよせてこいよをれを何より

そおとろくはく是こと小苑やう成あ
但是とい成終あ乃くるい度くそす

れを鬼乃極るものい成之又舞片の
成ありそれを曲舞かりあそす

まひかりれよはふいあかあーゆ
やふいとたふさてうち物さくか

や守其持つういをうあくく恐て
へくくくーはいうまてあはくから

まじ帯れに成あを用はす
一神凡此物ま祢は鬼かう也何とあ

くまらふそいあれハ神代ふうて鬼
かりふあんそくかあ海

と尋ふに意有神小まのひ乃かたれ風
 清らぬ一鬼ゆけま小舞かりきるあを
 ありし一神ををるはを神祇亦らぬ
 きやうよまぬくまかか神文出れ小か
 らてハ神と云せしを海一鬼れいさや
 をかさうてまもんをつころいてす

一鬼是又時又大和乃物也大半能うん
 ゆうかいついひのふれ鬼やあせうら
 くだううあれをす一あひらういとも
 うせそいほう小まこひとつういさうて
 う面白きたうう有海乃かいたれ鬼とよ
 く海あへしおそぬ一まらあも一らる
 市又小の海とハたまれよまあれん是
 とつうくおそぬ一うあ一つうれおそあ
 一きいこ心おかたれう杯鬼の物まのハ大
 成大事ありあへせん小つさあ面う
 海は一き道ねをあそり一さ小中意
 ありねを海一さいさあのうらさの黒白

此處ありとて鬼のおとろりうらふ所ある人
 ぞてはきこあたるよひとて中へこりて
 かすおれを鬼かりとてくせんをれは
 死とてわきて成へてとれはさうとて
 て乃れおとろりてとてとれはさうとて
 よ面白かり鬼のかりとてせんをれは鬼の
 ねとてろかりとてとて道程とてさうとて
 一宿半是かかろるる乃れ夏あはれとて
 けいするる題目ありて新撰ありて

成へてとておとろり人へ中かかろるれ
 かすおれとてとて一程いかりとてさう
 風神と持へて初めとてよにありて
 乃れとてとてとてとてとてとてとて
 手にてありて何とてとてとてとてとて
 とてとてとてとてとてとてとてとて
 面白かりとてとてとてとてとてとて
 ありてとてとてとてとてとてとてとて

あつ法中よほのこころあに何なりい
知しつてふかるこころいさも九虎をいせ
は何とふすこころいさも九虎をいせ
祥かどうして何とあつかひあるをいせ
わふふあせしをうてそれよ成や方祝物ま
祿乃あしつとのケ不此外細成をいせ
あつとふりつと九此案しとふりつと
こあはるん人かれ乃つと細あつと知し
一間抄申樂とりつとむるふ苗目小條を先

座ををみく音函とまで知をいり成
変そや答是大事あり其道よ得る
らん人あつと心いへつとんまの目其を
あつと今もいせつとあつと出ま
へつと獨相をいせつと是つとつとつと九乃
つと爰とつてこあよ神事又貴人の出ま
あつと申樂ふん人あつとつと座をいま
たつとつとつとつとつとつとつとつと
一間小抄つとつとつとつとつとつとつと

出で一言をあへてきこえんて座をおも時分乃
 閑子ようひりりて万人を心忘てれ心あま
 ひよ和合してきこくとあれを何とすも
 其日の申樂をえやう—まあわく申樂ハ
 貴人乃流出を中とすれをそ—早く
 出出と時わつてり—あま—はうあひ
 去行小思物なれ座あいま—は
 式おれれをせあをよて人のきことう
 して万人乃心いま—能ふあ—
 きこあへてきこくと成事な—
 あん時乃能ふ小物ふあうそ物ふとも目比
 ううう—とありきもほくほく物きたう
 せまあるまひ流法と人目おたらん
 いきくとす—是ハ座あともうあん
 やさ座—あんふつ—そ対と其ま
 の決心あひたらん流法と—
 つる—ある時の—記乃能十分よ—
 事—ある有るあやれとも貴人の流

よ可へ家ほてあは八肝要なり何と一て
 せと一もいんもきつまうておろつてき
 多るよとろさい受あしきれ八座あなりま
 おいとれそかんうえてみるゆ其道は
 ちあうせさん人さうあく知海一きん又
 云ふ家乃申樂なると琴ありの衆もま
 くり一あれえ定て志あるや書ハ二書目
 およそい徳乃辨さう家れいふふと一
 ことこれ申樂ありたならぬれをけし

徳あすいりあし一りき徳をすす下
 白く人き一くあれし書れ申樂は後ろの
 くあ乃申樂い一り一りまありきぬれ
 あと時分き一あく秋波玄杯一切八陰陽の
 和する系れさういを成就といきり一書の
 持や湯乃きせさしれいりあきまのめて徳を
 せん中し思ふたてし陰持也陰陽乃時分一
 陰持と貴身はな又陰陽和ある心也是徳
 乃一く世身成就乃娘也是ねと一海と足

あり陰ありをあらにいとくうきくを
 てこのこと終をきて人の心の乾やく湯也是
 取乃陰小湯拵とわくる成然ありては
 湯拵も湯とく陰拵も陰とせしわすれ
 不き湯一くれ成然も湯一成然あり
 何う面白か人又書れ内ありて時分よる
 て何と小流の座よりとてさひ
 何うふあはし是陰乃時と心得て三川
 無るふ心得てすく書くは

ありて陰拵ふあり申ありは
 の湯よありん夏いさあ有同敷也
 一 座ありとく終て思ふは是成
 一 同終の座彼急とく何と定て答是や
 何と申や一切の座は座彼急ありは
 申樂も是同終乃風拵と定て下先
 され終あり申流たく夏乃を
 成りこの細あり書曲がりて
 乃風拵ありは海と何とす

中一法を成す一いつかゝるなりと云ふ能成
と云ふ法を成してハ叶つて次たは能守
う一つも成る法を成する一なるゆゑ是序
破急あるゆゑあり二番三番よありて
はなる風評れらるゝ能とす一一得又
急よあるれいももせても教と入てす一
亦後日あといれらるゝ能よなき乃小のこ
小の系風評とす一一あゝ能とて後日
あとの中やとてなり時分とて人あす一

一問能乃勝負れ立合れも立ハいふ小答是
肝要なり先能教とて教能小のり
なる風法とちつてす一序よ之哥
道とが多しふちと、是也此藝能乃能者
ああれえある上も心れまゝあす
自他あれえ禁あるまの案乃心あり
されは能とせんかとの小和やあゝは
能と修らん又安かる一此道れ安あり
されえいある上も心れとてさるん

て二騎當ふれ共成とも軍陳めく共具
乃ふん是れあしこれい子柄の特靈立
今ふみゆへ一歌方ふあきたる能とす
れえ三河ふも何うかきうて思ふれ能
とすへ一かぢふ敵乃能よかえてすれ
はいうある敵方れ能よきれともそのま
ハ海くふ事あしそよくおま勝
ハ決定あるし一勝負口傳有く
一問是よふある不富むらんや初入たるま

乃志かそ若人ある小唯今うりきとて乃
立合よ勝負これあり不富や各是こま
先ふりつる三十以前乃花あれえ右きとて
のふや花失てこやある時分小ありし
き花あて勝負有ま実れ月周ハ世分
へ一とあつらんやうく月きうしれ批判乃
勝負小成へこ也玄形う招あり五十ハ
才まて花の失えらん志てゆいり成若
まは花成れ勝負ハまあしあふり

花傳六

十三

上は此花の美なるゆへに負度あるもの
各年成ると花乃さうね時乃事さかん
大槓一重成た初花多くとさけるをやえ
んうやうれ多くと思ふ時二重の花成た
立合は勝ハ初うやえれを肝要此道ハ
けり花の成を成と花失ふと守
もとれ名をうりやと花事あるといふその
あしあやまうありの物教をい似せたり
とも花乃と花ともさうさかんハ花のさ

り時乃草花と集てらんうこ
可まの草よおいてむ乃らととあ
あれと面白くも心おのり花や物
教はくあくと一乃れ花とむさ
やはらんそては一乃れ名を久む
こねそむれ心おのり分花多くと思ふと
人乃月お思ひのこあかん人由合の
花は花のさうふとさきそむりうこ
一又同上の成れとてふて重く有

一たといはるべきもあたる上の子孫人せ
 こそ此花乃ち更ふらんをては上の子に
 ていこそあとも花後まそいまはる一こ也
 ち更ふもいぢたてんといひたといはるさ
 海こそ花を結一花多小あくを面白
 一花多く一さしは美乃花の残たるまで
 よいといふる若き花ありこそ勝事一も
 同敷あり

一向能小多くこそ花更よいも一したる
 きてそ一むきは上の子小海さうたふあ
 め是は上の子れせぬハ叶ぬゆ流又すまき
 きめてせぬゆ流花一切乃ち更よあて
 きてさるもく得るある所も物や位はまのさ
 きたれとも叶ぬ更あまふかゝ是れあ
 うこそはるといひれ事あく料花也まこと
 小たまのまきういゆらん上の子いふと何
 れもさうあさるんをれを能とちまとき
 日あたるあてり人の中一人そあさる

後集六

十五

ありちまのあつては人あ人の是とみる
 人そこのしきすじのひる名とだのこぼ道者
 小わくきりてはあつてあそきもゆもい
 所れたましくいふことかかたしとよ
 そ下の子そたりいふ人お尋へてさうあり
 ら能とちまともきふちたしは是と能へ
 いりあつてあつてききりて成るなりとあり
 といふことよそ是ともものありは是
 亦一れもたてありてさういふことおとみた

ついでと我のつたのよといふあそき
 蹴あつて是心よけなくせしめて我よりさ
 べとそいふさほあまきや下の子とよ
 のころきそみえん上の子のよよりさ
 ぬいんや初心を我あしえさしそよあ
 きおもがうらうらあおひて是とおま
 て人のそ尋ちまといふこといふ
 小あつて能らやあつてさ
 小あつてあれ評よりあつてさ

地とくまん心あつく我の記の事い其実
 とう怒とて成てーくさく而ととく秘入日
 ともさく而とくさくーと思ふく去程尔年思
 くと能あめぬあり是列下もれ思くは
 によひふためあり愕あつく能はさく人
 ーいん人やうふれは海蔵とや能はさくー
 あんーと思く上ひ下ひれもなやとくま
 ー下下ひれさくさくさく上ひる物教は
 入事其と思極の理也人のよき事あり
 地言ひつものれ海蔵さくれとく是也

一向能は位の善ふと名責いん各是目さ
 さくれ言くは事ふれありさくよ指ん
 かうれ能ふもさく思くは風神も他
 けいさありんさく思くは思くさくさく
 事也先能言乃切て信お人け尤也
 而やまこ生はくさくけさくさくさく
 善らものありあつく人さくさくさく
 ああさく思くさくさくさくさくさく

さいごいごいあうかきうせえりて一切の海
 へいをえたりけしあう物や然るは又出
 去るあうさうたをれきりて是は心
 せんあうたをき又物心の人かともわ
 こふ位と心のせんやきりてあうさう位
 いふくうあうて到けいこけりか
 なる一西路位とせんあう乃復あて
 けりていふれ叶ます又けりてれ切
 あかちらぬれ此位と乃とあうさう
 けりていふ書曲のうまのうかきれ
 ありていふせんあうのうけりてい
 あんして思あういせん乃位は生れの地
 うたけあう位切たるあう心中は案を
 かりていふ一問文字と書田風流と
 せんあうせんあうあうけりてれ切
 くれういふは是あり
 一決前あうとさうあう服ちまよ下さる
 あり其時ちまありと下ふてあう

い乃上面のくぬい—薄らつてきやま
其神の袖ふて後と中入る—する物
是法前乃能のさ—あり

一云家男女とふ又神能也律ありしつ
まのれあ弁れ扇たつ—常れ様ふ
はまのれあやま—わあひ
一廿一れお役まの物人本うす—や
おぬま—ふまの扇乃う—や
あつ—あまの扇と右れ—よ

とろ—ろあ—あめとあ—
さあ—かりそちあ—つまのれあひあ
中—ま—思物—云扇のさ—屋の物人
あふら—あまのれの外—常れ—ま前
うす—い—ま—のほ—あ
乃かりふぬんけたる—前よ扇ま—
一志布—楠乃串銀ふたひひて下—
は—あ—あ—あ—あ
ま—あ—あ—あ—あ

あまじりつかりかきせておろへう寸同桶の
おの半あさきこえんりちんくらちやむよ
いられおの紫白うたあくと申くせぬや

一 高砂高流やうはてと持大和わくし其か
ふれ度ふらうきと持事あーんよあき
さう落おれつさせぬいと去時にくまてを
おいさけさうとく流よあー流よわけと
とうたあうくは舞する事才一あーん
ありさわく流とは舞と別成はひり事

あまあるうくいりあんの海を流むくあま

一 綿木曲舞扇あく舞事有綿木あて
舞事又よむの舞扇あつ男あわきと
あつんあつんあつん綿木にて舞も草
の戸さうーれ時つまこれあへゆきあつ
てふめをれえすうくとさるあつと時ふ
綿木とわきとてとさあは時よ扇あて舞
さて其後かといよまう綿木とあふ
栲ねへさいとさあゆくちまあれのあふ

〇ははは時りきくとはは舞をあつて
 ふつとまのや乃時綿木とつまは前由てま
 うらりきとつと見えて綿木とすら
 子又云綿木と流はふかけはくさあり
 是より扇おて舞あり
 一三輪尚流かろれうも又魚いゆて舞又
 魚い捨て舞ふあはは時扇少て舞や
 今春かろ初より扇少て舞是あは
 乃らうらあり中入の前女僧初へ衣を

い時乃は舞よき衣とら出たまの前
 とふけあはは時たま衣乃をんくあり
 左れきより衣とら上あははにてい
 きあはは舞や休さくはいと海休
 ひとと云て立ああり一足二足をとる時
 志くくさていし身はいはくふすむ
 人そとよまの同あり世間よ衣とらあり
 流はは舞是いさくまきそや僧初め流
 ころく女れよる度中一小有すはは上志

きてこの水取て糸なる甘あれん明神
 下衣小流湯とらけ給ふ中みへたり加世の
 時八南僧教乃決をりく下衣れらうはうえり
 おのひくううあく衣とあけおはは舞をこ
 一うきみちまらうく水衣の袖ととまきては
 寸は舞とは是習有大事也袖ととまら
 後と時乃舞一舞習を舞つうあさう
 小あゆみうととまらうとふさう一舞しちさく
 と後世もよ人のすのいもなる人のいもそ
 と一ぬ云ぬう小也心得いてけつこもたふ
 ちまらうととまらう舞をゆふまいのせん
 あ一是物とこぬう心ぬさる人のいもせ
 大あるいり事也同舞は短文は不同前後
 一そらちらうととまらうととまらうととまらう
 あくひあう
 一かけれは舞面乃は舞ととまらうあうけ
 のは舞とのいあ一一人乃等と同乃いそ
 れ人のまのいとするは舞の事面のは舞と

中は我身が事と我とするは舞の事人
 乃等とはあのみは舞まゝといふ我身乃
 は舞心持ちありかゝるは舞の事なり成
 ことせよといふ口傳なり

一舞の玉れ伝ふことありては心なかり
 きて舞をまゝかゝるはたゞいふあり舞する
 人の心掛よといふは玉の事なり玉を人似る亦
 のふきをいふ事なり

一鬼は拍子れ事なりありては玉の事なり
 うちよといふは玉の事なり
 一舞の玉れ伝ふことありては心なかり
 きて舞をまゝかゝるはたゞいふあり舞する
 人の心掛よといふは玉の事なり玉を人似る亦
 のふきをいふ事なり

一鬼のいれ事らういきき人かしの鬼のいれ
 おふ世の鬼おんまやれ鬼として人かしの悪
 念あゝ鬼の成るものきき外をたいてん
 くこいれいさあめし心持らういききあふ
 一いさささあめしたれ位はれいれい
 色

一ゆやれいもや其外車小系能た乃是よ
 一圓ふいさあめしたれ位はれいれい

一三揚乃中入の後みりあつたふら給ふ
 おてち更他地の中よりあてくろいさあめ
 る立て居様なや曲様よすろい有又作
 物乃中ふ甚まこいさあめしたれ位はれいれい
 めいさあめしたれ位はれいれい
 マさうい声れ間こいさあめしたれ位はれいれい
 是ととちつきてれは様腰うけふらうい
 てれいれいれいれいれいれいれいれいれい
 舞は是れいれいれいれいれいれいれいれい
 てありれいれいれいれいれいれいれいれい

以て別ふ面白き事ありしをあらはし
休まらんらにて面白かりていふ事あり
小いり

一面と見るなりは変先面乃ちやいと水面
の内小わく面白きついでとあらはる
子小取事有るもつとみなり是は
貴人乃ち沙前めくれとをいふ也同守
らしむ心得有

一大臣等なり上正のけは変當流ハ前二篇

二一物二篇及之は厚ふかふ家こち和
ハ前二篇うらう二篇及之は厚ふ小掛也
一而乃緒のゆひをうらう事此下三あり
あると二篇あり乃をてゆふあり一篇は
ありたるはうふふ半也

一中おろしうもこれ面白くはまあり
あきとれ程もあつたよはのけり
あまのうらふもあつたう海にハあまの
けり有右は替目也

一 貝と音童子面年ならいぢあーはあひん
 音以不の貝ハきんうきうかたをあて是
 色まのころけうけあーまゆまことたう
 あー又童子乃面うかたをあまうきこ
 うあーみさけうこあてまをけけうき有
 一 面乃あうあひきううかまてあーきぢや
 又あうーきぢあひきうてあまうあ
 きてことらげたるもれ使くるーきあ
 うき、経乃ゆまきぢあ

一 面乃緒の事、女面ハ紫男面ハあひん
 面ハあひん、鬼の面ハあひん
 一 面乃かき屋ハれまははあひん
 一 面ハあひん、年の比と他ハ一申う
 分二十中又乃時の事と他ハ系能ハ若男
 かこまふあまうーくは若男ハ十八九も也
 か屋ハれ事うーはあひん
 一 面ハあひん、れまははあひん有まんさうき
 あひん、えん乃あひんハあひん、れまは

ハ成道事也いづくも事あるは
其習あり心持有まあり付みたるの事
何の事ちまこと右にありすあは
さて着人もやふ急の事と云はし時
あり又ちまことして是とありし
れはも又作相の時と有る人とい
よもあつたつたれは此小袖の
事すれ事有習口傳有

一紫此僧の紫乃の衣きる事あり

紫乃の僧乃位ありますん

一紫此水衣をまきる事同前是は能
ありし人乃位もあらす

紫乃の僧の紫乃の衣きる事同前

同前

一物ね乃出さひやとあるはかげも
倉一百万ありとあるは
あるはとありとありとありとあり
はかたれありとありとありとあり

一もせはふりー使ハき縁こころしむむ
 雲北門のちせとと云義せ後かうんとい
 ろらやき入むおは深まもせとれ女のま
 ねやうすくれ花をあらんお中云義こ
 一ち長ときなうとさ乃名宗甚人の位おま
 至てとーち長あとお宗名宗は云家入
 こまあつおあーたわー一是あくめ
 くち華せり屋しれ華しはる成習や
 心得ー

一かばり帯北首是尚流いひとありちわり
 一あつおあといひてふくもは又流川のら
 一つりきりさくるおとそとへんせもは他樹
 一おまうみさるも有ー
 一ち長のおま二人ハ一對乃わら衣むおま
 一ささはらとくえもをーきさうさか
 一衣むおま
 一僧ささ三人出る能あも二人ハわら
 一乃水衣なるーなうさ僧乃信おま

て色をうえを御しこひあはるるは水衣
きんぎょ

三輪乃後のおきたまひきぬ大ら合
乃うさねうら海にれかとおがいらう
れう人小かきへー一 舞衣乃るるさあ
うまらうさうなあり

一 百可れよきい苗流ハ上下にておき
ありち和かくり僧よきあり

一 世物わ乃おやいらうれりき屋しれ事

ありふりきい母良恵ねいらうれり
はくはいてうつくしくかまふお守大
ういりてかつて帯あまかき
いらうれりきもよみおてゆいあ
常此能おはゆゆ乃下りか

能れあいの橋かりれ度

一 ちを乃さひの三間同飛さう一は長から
こ成りーあ人乃さうこ五尺せふい
あり子同二るあまうーおんていあ
あ人あ

ちうふうきとする物也た後の高き多ん
 乃ういあきれは舞いあうう近くみまハ
 能あさる成物や口とひやうとれ能あさハ
 下さう一思ひして何ちうみかさハ才一人
 とらせはしき為又六時乃いひ半口場を
 の用方のをう一其上さやうよたうきふ
 たいよていあまうとすハ能とみえねあけり
 うさういふかきと用だあり

一中れあさひや二万ものあう言方也是も飛
 一う一は甚うくさ成一是もやういふ
 一なるあさてくありハ高き五尺程れり
 一さいふ一棒かりとて人のあうくさ
 つねあうふうきとゆくまうしてむるれ
 多へ乃高き口人あり
 一やをれ能あさハ二回言方れやういふよ
 くは是も飛う一ハ甚うくさ一思合能成
 一ハ言まのれあういあしとよさこれ最長
 一あんとあまう一ハあさハあさハ三尺

乃かろく相應の住持れつる心得所
あり

一あひこもあゝ似たる住持せねぬあり
うゝらゝあゝうゝ海あり

一か能ふ刀とねさゝ短と長は住持と

あゝも心持まゝ一終るありとれもせらふ
らゝあゝ一うゝ分別まゝ一但かれ心持

一きさゝらゝ又住持まゝとまゝ一お所要と

一たのふふとと云はまゝとれまゝあり

縁成と成るふ合点有

一うゝらゝもせねぬありと云は道盛小

一五南度のふふありと傳と

一月待候のうゝと孫と云は紅葉狩も有

一定と成る事いふとせらふと云

一是はみとく小て定れ月の事小てあり

一うゝれらゝい何れ能ありと云事や

一書つらゝ一類一是といへ何れも分別

一すゝらゝ一うゝと云

一 ちまつまふむのり入ちまふうせいのりま
つれおだくまゝのりかひまゝあゝまもあゝ
はまゝちまゝのりせいのりあゝまもあゝ
一 ちまゝのり入ちまふれまゝのりまゝ
中は時のりまゝのりまゝのりまゝのり
まゝのりまゝのりまゝのりまゝのりまゝのり
のりまゝのりまゝのりまゝのりまゝのり
肝要のりまゝのりまゝのりまゝのり
まゝのりまゝのりまゝのりまゝのりまゝのり

一 肝要のりまゝのり
一 つまづれまゝのりまゝのり
まゝのりまゝのりまゝのり
くまゝのりまゝのり
いりまゝのりまゝのり
まゝのりまゝのり
一 他にまゝのり
まゝのりまゝのり
まゝのりまゝのり
まゝのりまゝのり
まゝのりまゝのり
まゝのりまゝのり
まゝのりまゝのり
まゝのりまゝのり
まゝのりまゝのり

肝要

三

持のまへとよき心持

萬能の心持

一 神能心持おきてうらむ時我を神と

思ふ一いつい心とつらきかおと

一 鬼我を鬼とおとあつらふといはふ

一 心持と持おの事習あり

一 修得乃心持はくことよむ時軍場ある

一 時の心持同前

一 丹我を以て母を分と思ふ一若くあとも

ゆるくして心とつらきかおと

つらき心持あり一をわたり

一 佛ふとの能我を佛や思ふ一

一 心持甘くよおてきつらき

一 心持我をわたりし思ふ一

一 心持心とつらきおと

右それれ能心持ち方如けにおふ

くはえ能ふきれくのいさおいあり右

心お肝要之此外何乃能也是と分

別有「一」は「成市」心とあり、小
お物と「一」は「お心」とす、うく持いとむ
「一」は「さち」を「く」の心お肝要あり

一 陰乃能心おれ度而「陰」よ「く」と湯よ心

一 湯「一」さる「よ」あ「く」は「能」あ「く」地

一 湯乃能心おの事おとと湯よ「く」と陰

一 よ「く」て「一」は「根」小「あ」く「く」は「つ」あ「く」を

て「く」や「あ」く「く」右の心おと「一」湯

陰和合と是と云は能小「く」系「一」陰陽

此湯と舞と有とあせ定家此後松乃

山の「く」ゆ「く」は「い」め「く」あ「く」は「陰」乃「陰」あり

又お禁符「城」向「く」と「湯」の湯也「く」を

乃「く」よ「く」て此「く」い乃能の位分別「一」

右細は陰湯乃位分別「一」て「く」く

乃「く」は舞「く」を「け」肝要あり

一 古記能の極意七十一ヶ條此巻よ書「く」

あり「未」代よ「お」か「く」右人の「く」お「く」は「事」

と人「く」小「く」く「く」なる人「く」有「く」間敷「く」致「く」



此より度々口小ぬり方中あり習と云
 半一秘事と云是をいつく半一
 すうらうそあり事とかありと終て觀
 世音阿弥今春善行ありまやし人
 阿とんたりそし廿四世中人の作其目
 今れ諸藝のかくこれ為是と書終
 一秘傳書と号し一殘し一た
 くれい事し私よありい上意とん
 てせん一とありすとのれと天下の

此ちまあるれ中人の觀世は是と
 多し給う思

廿四

廿四

廿四

